

# ～水稲生産農家の皆様へ～

## ばか苗病防除に向けた取り組みをお願いします!

ばか苗病が多発傾向にあります。  
本病の防除には適切な種子予措と環境衛生の徹底が必要です。

### 対策

### 的確な種子消毒・浸種・催芽 ～消毒効果を維持するために～

◆ばか苗病は発病後の薬剤防除ができませんが、**的確な種子消毒（化学農薬等）**や種子予措等の環境改善で抑えられます。

◆自家採種は保菌リスクが高いため、100%採種ほ産種子を使用します。

#### ◆種子消毒のポイント

- ①微生物農薬は薬液温度を守る。
- ②温湯消毒は処理温度・時間・量を守る。
- ③温湯消毒種子は速やかに冷やし、乾燥または浸種する。
- ④各種子消毒法を組合せて防除効果を高める（表1）。

◆消毒方法が異なる種子や未消毒種子と一緒に浸種しない。

※ベンレートによる種子消毒は、ばか苗病に効果がありません。

表1 種子消毒法による防除効果の違い  
（平成22年北海道普及推進事項から抜粋）

| 種子消毒法         |                         | 防除効果<br>（ばか苗病） |
|---------------|-------------------------|----------------|
| 単独処理<br>（対照区） | エコ（エコホープ 浸種前200倍浸漬）     | C～D            |
|               | エコDJ（エコホープDJ 浸種前200倍浸漬） | D              |
|               | 食酢（食酢50倍）               | D              |
|               | 温湯（温湯消毒60℃10分）          | B～C            |
|               | タフ（タフブロック 200倍）         | D              |
| 組合せ<br>処 理    | エコ + 食酢                 | B～C            |
|               | エコDJ + 食酢               | B～C            |
|               | 温湯 + 食酢                 | B～C            |
|               | 温湯 + タフ                 | B～C            |

（防除効果）B：化学農薬と比べほぼ同等、C：やや劣る、D：劣る

### 対策

### 環境衛生の徹底 ～周辺環境から感染を防ぐために～

◆ばか苗病の発生したほ場の稲ワラや籾殻、米ぬか、粉じん等は伝染源になります。  
種子予措を行う作業場やその周辺を十分清掃します。

◆消毒前の種子と消毒後の種子は同じパレットやシート等に置かない。

◆浸種催芽で使用する機器や容器は、使用前後に十分洗浄する。  
品種や消毒方法が変わるごとに十分に洗浄する。



平成26年1月

# 優良な種子生産に向けて取り組みを行っております

## ばか苗病の感染サイクル

- ◆ばか苗病は種子伝染性病害です。
- ◆移植後に本田で発病すると、出穂期ころまでに枯死して株元に無数の孢子（写真⑩）を付けます。
- ◆孢子は数百メートル飛散するとされ、出穂・開花期の健全籾に付着すると、その籾は汚染種子として翌年の発生源となります（図1）。
- ◆採種ほ場は、ばか苗病の発生がないことが法律で定められています。
- ◆ほ場審査ではばか苗病があると、種子として扱えません。

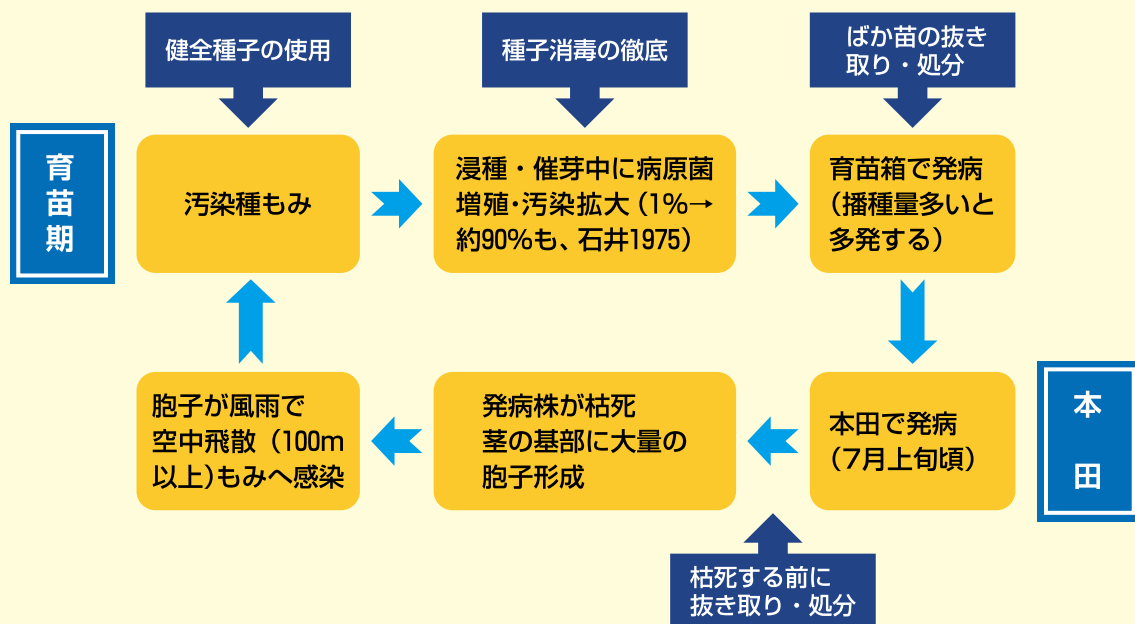


図1 ばか苗病の伝染環と防除のポイント

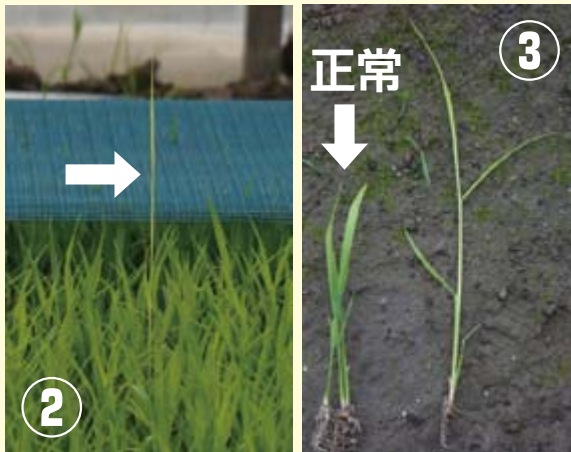
これらのことを踏まえ、道は平成25年度から、採種事業において、近接ほ場で「ばか苗病」が発生した場合の暫定的な基準を定めたことから、これに基づく採種生産を行っております。

採種ほ場に近接するほ場で、ばか苗病の発生があった場合、採種としての取扱いを行わないこととし、万全な種子供給体制を図っております。



# 育苗期間・本田期間の症状と抜き取り

## 育苗期間の症状



典型的な徒長苗（ばか苗）



やや短めの徒長苗

## 本田期間の症状



疑似症状株  
(やや長い草丈  
と葉の黄変)



### ◆抜き取り◆

育苗期のばか苗は、ポット苗では株ごと、マット苗では周辺の土ごと（できればマット単位で）廃棄する。本田の罹病株は枯死する前に株ごと根付きで抜き取り、出穂前に抜き取りを完了する。疑わしい徒長苗や徒長株は抜き取る。

抜き取った苗や株は、適切に処理する。

# ばか苗病防除チェックシート

## 環境衛生

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | 作業場所やその周辺から、伝染源となる稲ワラ、籾殻、米ぬか、粉じん等を除去し、十分清掃する。 |
| <input type="checkbox"/> | 消毒前の種子と消毒後の種子を同じパレットやシート等に置かない。               |
| <input type="checkbox"/> | 温湯消毒済み種子は、清潔で過湿にならない場所で保管する。                  |
| <input type="checkbox"/> | 浸種、催芽で使用する機器並びに容器は、品種や消毒方法が変わるごとに十分に洗浄する。     |

## 浸種催芽

|                          |  |
|--------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> | 種子消毒、浸種は水温10～15℃を確保する。                           |
| <input type="checkbox"/> | 浸種期間は浸種水温10℃で6日間程度とし、安定した薬効を確保するために、水交換は2～3回とする。 |
| <input type="checkbox"/> | 温湯消毒法は、生物農薬等と組み合わせ処理をする。                         |
| <input type="checkbox"/> | 複数の品種や消毒方法の異なる種子を同じ容器で浸種・催芽しない。                  |
| <input type="checkbox"/> | 催芽は30～32℃で行う。                                    |

## 出芽育苗管理

|                          |  |
|--------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> | 苗の型式にあった育苗期間を設定する。                     |
| <input type="checkbox"/> | ハウス設置後は、被覆資材等による二重被覆を行う。               |
| <input type="checkbox"/> | 出芽までの温度は、32℃を超えないようにし、被覆期間は必要以上に長くしない。 |
| <input type="checkbox"/> | ハウスの温度・水管理を適正に行い、健苗育成に努める。             |
| <input type="checkbox"/> | 育苗箱内の発病苗（ばか苗）は、見つけ次第直ちに抜き取る。           |

ばか苗病防除に向けた取り組みをお願いします！

平成26年1月

北海道・道総研農業研究本部・ホクレン  
北集・北海道米麦改良協会